



不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷
<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

「やまびこ親の会」を開催しました

平成22年8月28日(土)～29日(日)の2日間、県立但馬やまびこの郷において、「やまびこ親の会」を開催しました。県内各地より45名の保護者の参加がありました。

初めは、少し緊張されていた皆さんも、交流会に参加されたり、製作活動を楽しんだりされるうちに次第に打ち解けて和やかな雰囲気になり、夜遅くまで語り合っておられました。

2日目は、兵庫県スクールカウンセラー・スーパーバイザーの今塩屋登喜子先生から子どもの背景や要因に応じた対応の仕方について学びました。



〈保護者交流会〉

家庭でのカウンセリングマインド～今塩屋先生の講演より～

Q 子どもに何を聞いても、「別に・・・」「何でもない」としか言わないのですが…

A 困っている状況が、言葉で表現できるほどはっきりしていない場合もあるので、「いつでも話を聴くからね」と伝えて、見守ることが大切です。また、言葉以外のコミュニケーションツール（お手伝い、スポーツ、音楽、お菓子づくり、将棋、オセロゲーム、トランプ等）が心の架け橋づくりに役立ちます。自分のことを気遣ってくれる人がいるという安心感があれば、心は軽やかになり、やがて人とかかわりを求める気持ちにつながっていくと思います。



〈今塩屋先生を囲んで〉

参加者の声

- みんな同じ悩みを持つ親同士なので、本心を話すことができました。去年の親の会で知り合いつなげた絆が、今年さらに強くなったような気がします。また、来年も参加したいと思います。
- 今回、スタッフの皆さんと一緒に参加されたお母様方の話を聞かせていただいて、まだまだ親子関係は変えられる、良くなると感じました。今塩屋先生の講話も大変勉強になりました。また、OBの方のお話はとても参考になりました。
- あまり情報がないまま毎日を過ごしていましたが、やまびこの郷に来て、同じように子どもの不登校で悩んでいる方に出会い、自分だけではないと思うことができました。また、明日から子どもと頑張っていこうと思いました。



スーさんのちょっとセミナー

「家庭での子どもへの働きかけ」連載その6

私は誰？僕も高校へ行きたい！

県立但馬やまびこの郷所長 杉村省吾

不登校は、一般的には、下の表のように進行していくとされています。今回は、「登校準備の時期」のうちの「目的の認識と自主性の獲得」についてお話ししましょう。

①心身症的時期 ②反抗・暴力の時期 ③怠惰・内閉の時期 ④登校準備の時期 ⑤立ち上がり・再登校の時期

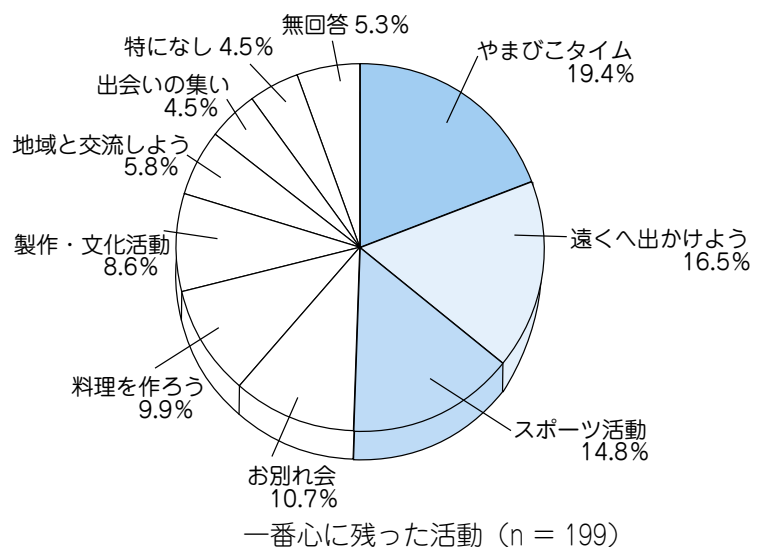
「目的の認識」というのは、子どもたちが長期欠席によって自尊心を低下させ、前途に希望をなくして自己効力感を見失っていた状態の中で、「自分は何のために生きているのか」という目的を見出していくことです。一方、「自主性の獲得」というのは、親や先生から言われたから何かをするという「外発的動機づけ」ではなく、自分の内側から盛り上がってきた「内発的動機づけ」という「やる気」を身につけていくことです。

但馬やまびこの郷では、子どもたちが目的を認識したり、自主性を獲得したりしていくためのプログラムが用意されています。

やまびこの郷の体験活動を通して

過去に当所を利用した199名を対象に行った追跡調査結果の中で、「一番心に残った活動」のベスト3は、やまびこタイム(19.4%)、遠くへ出かけよう(16.5%)、スポーツ活動(14.8%)であり、以下、お別れ会(10.7%)、料理を作ろう(9.9%)、製作・文化活動(8.6%)、地域と交流しよう(5.8%)、出合いの集い(4.5%)の順となっています。この結果から示唆されることは、遠くへ出かけよう、スポーツ活動など身体的活動による充足感が約3割を占めていることです。引きこもりがちな思春期の不登校生にとって、過剰エネルギーのはけ口としてのスポーツの存在意義は、相当に大きいと思われます。

心に残ったプログラムの一つに、自由時間である「やまびこタイム」があります。この時間帯には、子どもたちが一日の活動を終え、夕食を共にした後の時間も含



まれます。みんなでどのようにして過ごすか話し合った後、まず学習に取り組みます。持参した学習ワークや教科書等に挑戦したり、当所に備え付けのドリルに取り組んだりする子もいます。その後は、みんなで楽しい時間を過ごします。

今回は、この「やまびこタイム」における「目的の認識」について考えてみましょう。

子どもたちは、遊びのへやで卓球やダーツに興じたり、ビリヤードで技を競ったりします。エレクトーンの演奏をしたり、カラオケで熱唱したりする子もいます。語らいのへやでは、ジェンガやトランプなどのカードゲームに興じる時もあります。また、上級生がリーダーシップを発揮し、かくれんぼなどの集団遊びを楽しむこともあります。みんなが楽しめるように話し合って、ルールを工夫していきます。やまびこタイムでの学習の際、高校進学を控えた中学3年生が「俺、高校へ行こうと思うんやけど、どんな勉強をしたらいい？」と言うこともあります。そんな時には、



〈語らいのへやでのジェンガ〉



〈読書のへやでの学習〉

ドリルを使って、本人のできる範囲の内容を一緒に学習します。また、「高校入試に作文が出るから、それに挑戦する」と言い、スタッフのアドバイスで、一気に原稿を書き上げた子もいます。このような雰囲気につられて、教材を持参している子は短時間でも教科書を広げていきます。時にはクラスで無視されたり、いじめにあつて辛かった体験を話し出したり、リストカットにいたつた暗い体験を少しずつ話し始めたりする子も出てきて、夜半まで打ち明け話が續くこともあります。自分の辛かった体験を誰かに話すことができ、それを聴いてもらうことで、少しずつ気持ちが楽になります。

このように、やまびこの郷での活動プログラムを通して、子どもたちは、自分の生きている意味をスタッフや仲間たちとの間で発見していきます。自分が見つけたことから、これは本物になっていきます。

家庭での働きかけ

家庭での子どもへの働きかけとしては、引きこもりを放っておくのではなく、時々登校刺激を与えるとともに、子どもが上記のような「自分も高校へ行きたい」という内発的動機づけを自ら見出していくのを見守ることで、「親」という字を分解すれば「立木の傍らで見る」と読めます。子どもがやる前に親や教師が先にやってしまえば物事は簡単に解決し、これほど楽なことはありません。しかし、それでは子どもが自分の力でやり遂げたことにはなりません。子どもが自主性と主体性を自力で獲得していくためには、**見守りながら「待つ」**という、教えるよりも難しいスタンス（姿勢）が必要なのです。



やまびこフェスタ

～心の虹を未来へ～

平成22年10月31日（日）に県内各地より約370名の皆様に参加して頂き、但馬やまびこの郷民交流事業「やまびこフェスタ～心の虹を未来へ～」を開催しました。施設を開放し、当所の活動の中で行っている餅つき、焼き板等を体験していただくことを通して、「但馬やまびこの郷」について知ってもらうとともに、不登校について理解していただく機会となりました。当日の様子を紹介します。



〈学生ボランティアの講話〉

元気・メッセージ

開会行事では、園児による太鼓や地域グループのよさこいソーランを披露していただき、元気をたくさんもらいました。その後、学生ボランティアの大石秀典さんが「不登校の児童生徒とのかかわりを通して」と題して話をしてくれました。「やまびこの郷で出会った子どもたちの姿を見て、自分も一歩を踏み出し、成長できた」というメッセージが心に響きました。

達成感・充実感・交流

当所のプログラムにある製作活動で行っている焼き板を参加者の皆さんに体験していただきました。スタッフのアドバイスを受けながら、自分の力で焼き板を完成させました。この達成感や充実感をやまびこの郷では大切にしています。また、餅つき体験では、小さい子からお年寄りまで多くの方の参加があり、世代をこえての交流が見られました。地域の方々との交流もやまびこの郷の宝です。



〈焼き板製作〉

おいでよ！冬のやまびこへ

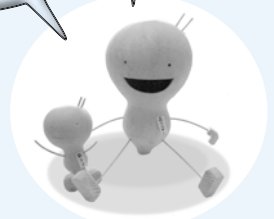
やまびこの郷では、冬にしかできない体験活動を取入れています。例えば「遠くへ出かけよう」では、スケートをしたり、スキーやスノーボードをしたりします。円山川公苑の屋外リンクでは、インストラクターが丁寧に教えてくださるので、初めての子も安心してスケートを楽しめます。鉢伏の広いゲレンデでは、スキーやスノーボードを楽しみます。そりで滑るのも子どもたちに人気です。雪が積もると、やまびこの郷でも雪遊びをします。かまくら作りや雪合戦、みんなと一緒に楽しさも2倍、3倍になります。また、2月8日～9日に実施する地域やまびこ教室（県立兎和野高原野外教育センター）では、歩くスキーに挑戦します。

ぜひ、この冬、但馬やまびこの郷をご利用ください。お待ちしております。



冬のやまびこも
楽しいよ！

わたしたちも
まってるよ！



（虹リン）（兵たんマン）
やまびこの郷のマスコットです

